

令和6年度 第1回 教育研究所運営に関する懇話会 議事録

- ◆ 日 時 令和6年5月17日（金）10：00～11：30
- ◆ 会 場 教育研究所 第2研修室
- ◆ 出席者
 - 座長 高橋 直樹 (鶴久保小学校長)
 - 運営委員 米持 正伸 (横須賀総合高等学校長)
 - 〃 小坂橋 貴久 (常葉中学校長) 欠席
 - 〃 佐藤 とみ子 (大津小学校長)
 - 〃 三宅 豊 (不入斗中学校長)
 - 〃 鈴木 史洋 (教育指導課長)
 - 教育研究所職員 梅谷 尚子 (教育研究所長)
 - 〃 矢本 歩 (教育情報担当課長)
 - 〃 田山 雅也 (主査指導主事)
 - 〃 伊東 誠司 (主査指導主事：研修・調査研究担当)
 - 〃 濱田 広治 (係長：管理運営係)
 - 〃 新谷 美紀 (主査指導主事：ICT活用進担当)
 - 〃 三ツ堀 幸正 (主査：ICT環境整備担当)
 - 〃 浅見 浩 (指導主事：研修・調査研究担当)
 - 他 指導主事4名
- ◆ 傍聴者 0名
- ◆ 次 第 (司会：教育研究所 主査指導主事 田山、記録：会計年度職員 棚橋)
 - 0. 議事進行上の確認事項
傍聴に関する確認
 - 1. 開会
 - 2. 所長・担当課長挨拶
 - 3. 懇話会構成員、係長、主査、指導主事紹介
 - 4. 座長、副座長選出
 - 5. 議事：令和6年度教育研究所諸事業等についての説明及び質疑
 - (1) 令和6年度教育研究所の基本方針、重点、予算概要 (所長・担当課長)
 - (2) 研修・調査研究担当事業について (田山主査指導主事・伊東主査指導主事・浅見指導主事)
 - (3) 管理運営係事業について (濱田係長)
 - (4) ICT活用推進担当事業について (新谷主査指導主事)

(5) ICT 環境整備担当事業について (三ツ堀主査)

6. 連 絡

7. 閉 会

[資 料]

1. 教育研究所条例
2. 教育研究所運営に関する懇話会設置要綱
3. 教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
4. 令和6年度 教育研究所「要覧」
5. 令和6年度 予算概要
6. 令和5年度 成果と課題

◆ 議事録

0. 議事進行上の確認事項 (進行: 主査指導主事 田山)

教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領

傍聴者0名

1. 開会 (進行: 主査指導主事 田山)

2. 教育研究所長・教育情報担当課長あいさつ

3. 議事: 令和6年度教育研究所事業報告についての説明及び質疑 (進行: 高橋副座長)

- | | |
|----------------------|----------|
| ① 令和6年度教育研究所の基本方針・重点 | 梅谷・矢本 |
| ② 研修・調査研究担当事業について | 伊東・浅見・田山 |
| ③ 管理運営係事業について | 濱田 |
| ④ ICT活用推進担当事業について | 新谷 |
| ⑤ ICT環境整備担当事業について | 三ツ堀 |
| ⑥ 質問・意見等 (次ページ以降詳細) | |

高橋議長： これより質疑応答に入ります。これまでご説明いただいた諸事業について、何か質問がありましたら、各構成員よりお願いいたします。いかがでしょうか。

米持校長： いくつか質問させていただきますので、よろしくお願いします。

まず所長からお話がありました教育研究所の要覧の1ページにあります基本方針重点ですけれども、1つ目や2つ目にある人材育成とか、それから教育の情報化については、非常に教育研究所は力を入れていただいていると、推進していただいているというのは日々感じているところです。私はこれを見させていただいて、3つ目のですね、カリキュラムセンターの機能のところ、ここが具体的にどんな事業を行っているのか、といったところがよく見えないのです。ですので、できましたら教育研究所が考える、このカリキュラムセンターのイメージや、こういうことをやっていることがカリキュラムセンターなんだっていうところをぜひ共有したいなと思いますので、説明をしていただけたらと思います。

次に教育の情報化についてですけれども、まず資料にはない部分で、デジタル教科書や、それから全国学力・学習状況調査のCBT化についても予算がありますと言っていました。それも大きめの予算ということなので、具体的にはいくらぐらいの予算をここに配当しているのかということをお教えいただきたいです。それから今後の普及の見通しとして、デジタル教科書を今後どのように普及していくか、これは国の動きとも連携し、関連しているので、横須賀だけでこういうふうになりますとは言いきりませんが、そういった情報も含めてデジタル教科書の普及の将来的な見通しをお教えいただきたいです。

それからCBT化についても学状が終わると次に何かあるのかというようなところ、そして横須賀市の小中学校高校も含めて、こういったCBTで行う事業やテストなどもゆくゆくは将来的には考えていくということになるのかもしれないと思いますが、そんなCBT化の見通しみたいなのも語っていただけたところがありましたら、よろしくお願いします。

次に理科研修会についてですけれども、理科の授業で特に小学校で理科専科が入っているところもあるかもしれませんが、ほとんどそういったものがない中で、その理科を指導するにあたって、先生方がどの部分に困っているのか、または不得意であるのかというようなところにスポットを当てて研修をしていくことも必要なのではないかなと思いました。研修のメニューは、先ほど要覧の中で示されていた11ページ、12ページに研修メニューがありますが、どうも生物領域とか地学領域に偏っていて化学とか物理の部分はどうなっているのだろうと感じました。特に化学ですね。それから物理の部分が不得意な人が多いのではないかと予想をしている中で、そういう研修がどうなのか。実際はここに隠れていて、やってらっしゃるのかもしれないので、そういったことも含めて質問した

と思います。

それから、同じく理科ですけれども、コアサイエンスティーチャーの養成っていうのは、以前は県の事業として、県が積極的に養成を図ってきた経過があるけれども、もう10年ぐらい前にそれが止まったと思います。そこからコアサイエンスティーチャーが実際に増えてはいないのではないかと思います。現状横須賀のコアサイエンスティーチャーの人口といいますか、実際コアサイエンスティーチャーとして活動していただいている先生方が何人ぐらいいて、増えているのか減っているのか。それから、そういうコアサイエンスティーチャーとして活動していく人たちが今後出現してくるのかどうか。と、いったところの部分聞きしたいと思っています。

次に人権教育についてです。人権教育については、本当にずっと長く続けてきちんと人権教育担当者に対する研修はやっていただいているし、また夏の研修講座などで取り上げていただいているところがあると思います。この人権については、何か人権を人権だけに切り離して考えるのではなくて、例えば校内ではその人権教育を指導できる教員が、校内の中でどういう活動するかというと、人権教育を児童生徒に行うだけではなくて、もう普段の生活の中でこの人権に関わる部分というのはいっぱい出てくるわけですね。生徒指導や児童指導の中で。そしてそういった関わりの中で、生徒指導や児童指導の案件の安定化というか、その心を荒れさせないような指導というのが、やっぱり教員の人権感覚に基づくものがとても必要なのではないかなと感ずることがあります。これは生徒指導、児童指導の安定化とか、それから他にも支援教育の充実にも繋がっていく話なので、この人権教育の中身について知見を深めたり、経験を深めたりする教員が増えるということはとても重要だと思います。

今、確かに担当者にやっていただいているのだけれども、それ以上のいろいろな先生方に人権という感覚が浸透していくような手立てが取れないのかなということも、学校に居ていろいろ考えることがあります。学校がそれぞれ研修をやったりすることも重要だと思っています。それはやっていくのですけれども、皆さんとも共有したいのはこの人権の知見を深めていくことによって、生徒に対する指導だけではなくて、教師間であったり、高校とかになると、新聞を賑わせているので皆さんも知っていると思いますけれども、やはりパワハラやセクハラといった形での教職員の不幸事にも繋がっていくような部分もあります。これも皆やはり人権感覚の欠如というふうに私は思っていて、相手を尊重できないために自分の欲望だけに走ってしまうような、そういうことではやはりこれが正直なくなっていくので、ぜひ人権教育の普及をもっといろいろな手立てができないのかということについて考えていただければと思います。何かこれは意見みたいな感じになりましたが、お願いしたいと思っています。

最後に研究所も 39 年を経過したということで、やはり老朽化が所々で進んでいるというのは容易に想像できます。トイレなどのお話もありましたけれども、やはりあのタイル張りのトイレに入ると、なんかすごく古いなという感覚があります。お聞きしたいのは、図書館や、それから隣の南体育館も含めた形になるかと思いますが、大規模修繕計画というのはどうなっているのでしょうか。大規模修繕を行うにあたっては、もう数年前から、ここをこう直したいということ現場サイドでも考えて要望していかないと、大規模修繕予算がつかましたと言われてから考えるのでは絶対遅いと思うので、そういう大規模修繕を何年後かに控えた中で、どうやって修繕していくか、どこをどう改良して良い施設にしていくかというところを考えていくというような、そういったプロジェクトチームなども立ち上げみたいなのも考える必要があると思いますけど、所見を教えてくださいというふうに思っております。以上です。

高橋議長：はい、では大きく 5 点あったかと思えます。1 点目はカリキュラムセンターのイメージするところということで。

田山主査：今 5 点ありました質問で、カリキュラムセンターにつきましては私の方から。デジタル教科書等につきましては新谷主査、理科研修につきましては浅見指導主事から、人権研修につきましては、また私田山から、大規模改修につきましては濱田係長のほうから説明いたします。

高橋議長：その順番でお答えの方よろしく願いいたします。

田山主査：よろしく願いいたします。ご意見いただきありがとうございます。まずカリキュラムセンターとしての充実を図るところで、要覧の 13 ページをご覧ください。6 番の (1) のところです。授業作りのために役立つ指導案や教材力などの収集支援をしてキャリア教育カリキュラムセンターとして機能の充実を図ると記載されておりますが、校長先生がおっしゃる通り、この部分については現状課題だと感じております。というのはこれまでは教科書を図書室に揃え、これまで教育課程の研究等の資料であったり、あと指導案であったりっていうのをイントラネットに公開をして、そうした機能の充実を図ってきたところですが、実際には前年度、実は懇話会の中でもお話がありましたように、もっと授業について例えば動画を配信したり、良い授業について配信したりであったりとか、そういったものを発信ということで、今実際には課題に感じているところです。

またカリキュラムセンターとしての機能というところでは、そうしたカリキュラム、教育課程について、授業等に役立つものを研究所で今後も収集発信をしていかなければならないという感じではおりますが、その発信の仕方について今後どのようにしていったらよいかということは検討していかなければならないところだと感じておりますので、またいろいろご意見等もいただきながら進めていきたいと思っております。

続きまして、順番がちょっと前後してしましますが、私のところで人権についても回答させていただきます。米持校長先生がおっしゃっていただきましたように、まさに人権教育については、先生方一人一人の意識の向上というところではとても大事なところだと考えています。県の教育委員会のほうでも子供たちの人権教育を進めるにあたっては、まず教育を担う教員の人権感覚を養うことから始めるというところが基本となっていて、人権教育担当者研修会でもそのことをお伝えしながら、先生方の一人一人が持っている気づかない偏見に気づきながら、子供を一人の人間として、人権を持つ人間として見ていく大切さを、研修の中で取り上げているところです。人権教育につきましては、担当者研修以外にも夏の研修を公開講座にしたり、人権・ダイバーシティ推進課と連携をして同和教育についての研修というのを取り入れたりして、他の先生方にも広く人権について興味を持っていただくとともに、やはり担当者だけでは難しいところがあると思っておりますので、ぜひ先ほどお伝えしました訪問研修をお声掛けいただいて、訪問研修をどんどん回っていきたいと思いますので、ぜひ学校のほうでもご協力をお願いいたします。私からは以上です。

矢本課長：すいません。私の方からも先ほどの質問の中で予算の中に含まれておりますデジタル教科書や学習状況調査のデジタル化に対応するための予算は何かということを少しご説明させていただきます。

元々は令和4年度に、試験的に入っていたデジタル教科書を使って通信量調査をしたところ、このままでは学習状況調査のデジタル化だけじゃなくて実際の教科書もスムーズに使うことがどうもできないのではないかということで、予算獲得に動いたものでございます。具体的に何をしたかと言いますと、通信量、インターネット回線を増強しました。契約上は1校あたり1ギガの通信量を10ギガ。するとそれに伴って付帯の設備も全て対応するものに変えないといけないものでありました。ただし一度に全部行うことができなかったのもので、まず令和5年度中に中学校と大規模小学校、そして今年度につきましては小学校の中規模小規模につきまして、この辺りの対応をして、全て完了するということになっております。

金額ですけれども、令和5年度は約6000万円かけておりまして、それが今年度は残りの分ということで約2500万円となっております。こちらが終われば、私どもの最善の策だと思っておりますので、これでスムーズに授業に、実際の教科書はデジタル教科書だけではないのですが、使えるのではないかと考えております。以上です。

新谷主査：教育情報担当新谷です。私からは米持校長先生からいただいた中で、デジタル教科書を今後どう普及していくかという点と、CBT化の方向性についてのご質問いただいたので、そちらについてお話しさせていただきますと思います。

基本的にデジタル教科書については子供たちの主たる教材として、教育指導課が扱っております教科用図書と同じ扱いの部分だと考えています。ですので教育情報担当としては先ほど矢本のほうから申し上げた通り、そのデジタル教科書を十分に使えるような環境を整えているというところで、今後普及しやすい環境を構築したという点で今回については考えています。実際には今後、デジタル教科書の中でも、どの教科を市全体で入れていくのか、また、全教科を入れるのか入れないのか、または学校各学年や校種によってすぐ導入する、しないというものもあると思いますので、そういったところは教育指導課と確認をしながら進めてまいります。導入に当たっては、10ギガというネットワークは入ってはいますけれども、それが十分なものでスムーズに稼働するかどうかというのは、今後も様子を見ていきたいと思っています。

また CBT 化の方向性についてですが、現在全国学力学習状況調査については国の動向の中で全ての質問紙だけではなく、教科調査の方についても、CBT 化に移行していくというような話は聞いております。ですので、全ての学校が一斉に全国学力学習調査状況調査を実施した際に、ネットワークが耐えうるものになっているかというのは、また今後注視していきたいと思っておりますが、横須賀市独自で行っている学習状況調査については、現段階では教育指導課のほうで管轄になっておりますので、またそちらも教育指導課の方で CBT 化を進めていくかどうかというところは確認をしながら進めてまいりたいと思います。市のほうの学力学習状況調査が CBT 化されますと、2年生から6年生、中学校は1年生から3年生までと、多くの子供たちが同時に、コンピュータを使ったテストを行うという形になるかと思っておりますので、そういった状況が可能かどうか、可能であろうという回線を引いたものの、本当に実行可能かというところは十分こちらでも注視していきたいと思っております。私からは以上です。

浅見指導主事：では続きまして理科に関わることを説明いたします。

まず理科指導の困り感や不安のところですが、小学校についてですが、教育指導課および小学校理科研究会の方との共有の中では、理科担当者の方が非常勤の方が一定数いるということ把握しております。そのため出張に出たいけれども出づらという状況があるということも把握しております。ですので常勤の方に向けては研修会を実施していく。また非常勤の先生方に向けてはイントラの中の理科ナビを充実させていくことで普及をさせていきたいと考えております。

続いて物理や化学の研修についてですが、こちらは要覧の12ページにあります、小学校中学校理科教材研究研修講座においてこちらのスタッフの方に、4領域をまんべんなく実施していただきたいということで依頼をしております。4領域の全てを実施できない場合については1回2回のところで3つずつ行う

など、研修が全ての領域において実施できるように工夫をしております。また本年度もそのような形で4領域がまんべんなくできるように努めてまいりたいと思っています。

続いてCST コアサイエンスティチャーについてですけれども、こちらの募集については、教育指導課の理科担当が行っております。教育研究所でも共有しておりますけれども私の記憶の中では、コロナで令和2年度は実施できませんでした。過去5年間では1名または2名いたと記憶しております。前年度は中学校の理科教諭がコアサイエンスティチャーになっております。本年度も教育指導課より照会文書が学校に回っておりまして、募集をかけているところです。こちらにつきましては引き続き、教育指導課と連携をしながら、コアサイエンスティチャーが活躍できる場を提供していきたいと思っております。教育指導課からは、ぜひコアサイエンスティチャーの先生が学んだことを、市の研修の中で還元できるように、教育研究所でも連携できないだろうかということをお願いしておりますので、コアサイエンスティチャーの先生が市の理科教育に還元できるように、活躍できる場を研究所も提供していきたいと考えております。以上です。

濱田係長: 管理運営係の濱田です。先ほどご意見いただきました施設の老朽化に伴う大規模改修の計画ということでご回答させていただきます。まず教育研究所と南図書館は同じ建物にありまして、どちらとももう築39年、それから先ほどお話ししたのですが、南体育会館も1年ぐらい早く開設し、40年経っているということで、どちらも老朽化が進んでいます。教育研究所もここ5年間ぐらいに屋上防水、外壁塗装工事とか、あと電気設備工事、令和4年度、5年度に空調やLED化を進めてまいりました。南体育会館も同じように、同じ時期に建っておりますので、令和4年10月から南体育会館は休館して、また同様に改修時期にあたりまして、屋上、吊り天井の工事、教育研究所と同じように空調設備、非常用発電機、あと電気設備の改修工事を行っております。この4、5年で大規模工事を終了して、当面10年ぐらいは同じ設備を使用していくとは思いますが、米持校長におっしゃっていただいたように、将来的には同じ時期に建てたものなので、大規模改修や同じスペースにあるので統合など、いろいろなことを考えていくべきではないかと私も感じました。これからはそういう視野で施設管理に当たっていききたいと思います。

当面、今課題になっているのは、令和7年3月に市立病院が開院されます。それと、令和8年度に久里浜のプール跡地に南こども園がオープンされますので、それにあって利用者が教育研究所や前面の駐車場に車を停めてしまうのではないかと懸念もあります。教育研究所や前面駐車場は、無料で今は止められる形ですが、場合によっては久里浜行政センターとも一緒に、有料化の方向なども検討していく必要を感じておりますので、当面は大規模改修も頭に入れつつ、

来年、再来年にオープンする近隣施設との関わりの中で駐車場の管理にも注意を向けて、将来的なことを考えて施設管理にあたっていきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

梅谷所長：一つ一つのご質問については今担当から回答したとおりですけれども、私のほうで思うところとして、研究所と学校との往還をどのようにするかということが非常に重要であるというふうに考えています。例えばカリキュラムセンターについて先ほどの件ですけれども、カリキュラムセンターの充実やその機能をうたったときには、やはりデータ化して、収集して、蓄積していこうということが多かったと思うのですが、媒体の方向もどんどん時代とともに変わっていますので、学校現場に今研究所がやっていることと、それを発信して使っていただくことを大事にしていかなければいけないと思います。そのためにどのようなことが充実に当たるかということとは追求していきたいと思っています。

それから人権については、この人権教育という領域について教育指導課から移ってきて4年目になると思いますが、やはりもちろん人権教育が単独で成り立っているのではなくて、全ての教育の根幹であると思いますし、教員として、一人の大人として人権感覚というのは、これはもう身に付けていなければならないですから、これこそ教育委員会と学校とが、ともに人権感覚を常日頃身につけていくことということをしてさらに行ってみたいというふうに考えています。

それからもう一つ、理科の件ですけれども、先ほど担当から申しあげました非常勤が多く出張に出られないという、理科の担当に非常に偏りがあるというふうに思っています。小学校の場合、理科を新採用から10年持ったことがないという職員もおりますし、専科やたまたま担当が持ってしまうというケースが非常にあり、これは教員の授業力向上や教員養成の部分でも、とても課題だと思っています。ですが、その研修について補うとともに、受けられないものについては研究所が行っております訪問型の研修ということもあります。近隣の小学校が集まって、研究所の指導主事がそちらに伺って研修を行うというものもあります。ただ、昨年度もこちらから募集をかけましたけれども、なかったという現状もありましたので、おそらくこれも知られていないという可能性もありますので、校長先生方の力というのは非常に大きいと思いますので、そこは連携してそれぞれのこちらの事業とそれから教育委員会の事業がしっかりと現場に伝わり、現場からの要請にしっかり応えていきたいと思っております。以上です。

高橋議長：ありがとうございます大きく5点の質問に対する回答がございました。米持校長先生よろしいでしょうか？

米持校長：ありがとうございました。またこれ一つずつ返しの質問なんかしたら大変なことになるので、一点だけすいません。理科の件について私が一番言いたかったのは、やはり教育委員会サイドが、先生方が何が不得意なのか、何が困っているのかを

ちゃんと把握して、それを研修に生かすべきだということをお伝えしたかったわけです。ですので先ほど担当指導主事の方から業者に対して4領域をまんべんなくって、それが教育委員会としてまんべんなくやる必要があるという分析のもとお願いしているのだったらいいのですが、それがない中でやるというのは非効率ではないかと思っているので、その辺のところはちょっと考えていただくとありがたいかなと思いました。よろしくをお願いします。

高橋議長：では今の点のご意見として、よろしいですか。

米持校長：はい。

高橋議長：他にご質問ございますか。はい、三宅校長先生。

三宅校長：はい。研修の事でいくつかちょっと話題になったものや感じているものということをお願いします。

まず20年経験者研修等が入ったのはとてもありがたいというふうに思います。総括研修も含めてですね、ぜひだんだん年齢が上になる方になればなるほど、本当に情報に関しての物というのが毛嫌いしていくとか、離れていっているところもあるので、そこはもうぜひやっていただきたかったところです。もう一点は再任用の先生方のICTに関わっているところ、はっきり言ってもう完全に乖離してしまっているとか、そういう意味では再任用の方々にも、もっとわかりやすくやりやすい、こんなものもあるよというご提案をいただくのが必要かなというのとはとても感じています。

あともう1つが、授業作りワークショップ研修というものがこの間も校長会でご説明いただいたのですが、研修終了後に行うというようなところをちょっとお聞きしまして、どうしてもこの初任者のことを考えると、研修終了後の時間帯で、本校でもそうなのですが、地方から来ている初任者たち、一人暮らしをしている初任者たちがどんどんそれで時間を取られてしまう。任意ですよと言われても、出なければいけないのかなというような感覚でそれが強制的なものに感じてしまうと、かなり辛くなってしまう恐れもあるかなというのは懸念材料の一つとして考えているところなので、その辺りをお考えいただいて上手にやっていただければと思います。

高橋議長：研修に関わることで3点ございます。20年研修とそれから再任用に対するICT、授業作りワークショップ研修についてなのですが。

田山主査：研修につきましては伊東主査から、ICTについては新谷主査からお答えします。

伊東主査：三宅先生貴重なご意見をありがとうございました。まず20年経験者というところ、経験を積まれた先生方への研修というところでは前年度の懇話会の中で課題というようなところでいただいております。我々のほうとしてもやはり校長先生、教頭先生のお話を聞く中で、次の管理職の先生であるとか、経験を積まれた先生がどういうふうに情報をアップデートしていくのかというようなところで

は、我々の思考としても共通の認識でありますので、研修の中でそのような事に触れるなど、機会があるたびにそういうところも強調してやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

授業作りワークショップ研修については、この間、田山主査が校長会に訪問させていただいて、説明させていただきましたが、やはり三宅校長先生がおっしゃられるように、あくまで任意というようなところと、あとやはり我々のほうの意図としては受講者が主体的にというようなところを併せて考えていきたいと思っておりますので、これから授業作りワークショップ研修については学校のほうに通知を出したり、研修受講者のほうに説明をさせていただいたりするのですが、その辺りがうまくバランスを取れるように我々としても周知の仕方を工夫していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。私の方からは以上です。

高橋議長：新谷主査お願いします。

新谷主査：はい三宅校長先生からいただきました、再任用の答えと、ICT研修ということですけれども、現在情報担当では特別に経験年数に応じた方への研修というのは、実際に設定していない状況です。ご意見いただいたのは、本当に私もぜひ先生方に推進していただきたいなと思っておりますので、また次年度以降になってしまいますが、検討してまいりたいと思っております。ただ本年度に関しては各学校に配置をしているICT支援員の運用体系を大きく変更させていただき、研修に特化した内容でご支援させていただくことになっておりますので、ぜひ学校内でも再任用の先生方に向けた研修会を実施していただければと思います。よろしくお願いいたします。以上です。

高橋議長：ありがとうございます三宅校長先生よろしいでしょうか？他にご質問ございますか。

佐藤校長：質問ではないのですが、やっぱり現場がものすごく忙しくて、研修に参加したい、校内でもこんな研修を持ちたいというような意見があるのですが、行事予定表を見て、入れる場所がないとか、休憩時間が取れなくなってしまうとか、そういうところで特に研修を受けたいという若手から申し出にくいというようなところで私達ももっと時間を確保してあげる必要があると思います。それから、オンデマンドなどの準備もしていただけたら、ちょっと時間ができたとき自分の空き時間でも見られるとか、そういうようなところでちょっとした明日に生かせるというものができるとは思いません。現場は現場で、もちろん研修が大事だということも言いますし、時間を作ってあげなくてはいけないというのは感じているのですが、たった1本の電話でできなくなってしまうということが本当に多々あって、そういうところも今後のお願いとしてできたらと思っています。

あと、デジタル教科書とかいろいろなものが、やはり現場にしてみれば急に入ってくるというのがとてもあるので、知りたい、できるようになりたいという気

持ちはあるのですが、すぐ本年度使えますと言ったときに、私達何も知らないというようなことがあるので、もう少し職員のほうが、前年度から次年度こういうことが始まるから、夏休みのうちにこういうことを勉強しておくとか、そういうことがわかると苦手感も減ると思います。得意な人にもっと聞いておくというような、身近に現場の中で隣の人と教え合うようなことができるので、そういうので予算の関係もあって厳しいとは思いますが、新しいものの導入が、できたら早目にわかると、そして準備も応じていただけるとありがたいと思います。

高橋議長：2点ありました。研修に関わることやオンデマンドの準備で、またもう一点は、新しいものの導入に関する準備というか、デジタル教科書も含めてです。いかがでしょうか？

伊東主査：佐藤先生貴重なご意見をありがとうございます。我々も初任者研修、1年経験者研修で勉強している経験者を、経験年数がどちらかというと少ない先生方を研修していると、やはり目をととも輝かせながら、この学びたいという気持ちをすごく持っている方が多くいらっしゃるということは、我々も研修をやりながら感じているところです。そういったところで、振り返り用紙や研修受講者のグループ協議での様子というところを、我々のほうでも細かく見ていながら、先生方の学びたいという意欲をできるだけ大切にしていきたいというところは引き続き考えていきたいと思います。研修内容の精査であるとか、いろいろな次年度に向けての準備もありますし、佐藤先生がおっしゃられたようにオンデマンドであるとか研修の受講の仕方というのは様々多様化していて、いろいろなやり方ができるというふうに思いますので、我々のほうもいろいろな情報を入れて、先生方がニーズに合った研修を進めていけるように取り組んでいきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

新谷主査：佐藤先生、ありがとうございます。新しいものが入ってくる段階への対応ということですが、デジタル教科書は先ほど米持校長先生のお話の中でもお伝えしたとおり、基本的には教育指導課の所管の事業になりますので、教育指導課のほうと連携をして、導入にあたって必要な予算が確保できるようにしてまいりたいと思います。またその研修体系についても、事前に早めに準備ができるようであればと思いますが、ただどうしても教科書の採択期間があつて、その後すぐに運用が開始するというような流れになっているので、なかなか事前に教科書にデジタル教科書が入るときの研修というのは、もしかしたらちょっと難しいところもあるかもしれないのですが、できるだけ先生方が早め早めに子供たちへの指導に生かせるような研修が進められるように今後も情報収集しながら、指導課のほうと連携をとってまいります。以上です。

高橋議長：はい。ありがとうございます。佐藤先生よろしいでしょうか。

佐藤校長：後、電子図書館はやっぱり指導課のほうですか。

新谷主査：電子図書館は市立図書館の管轄なので指導課でもなく、こちらでもない、管轄が全く違います。

佐藤校長：うちの学校で前年度、有償の電子図書をやりたいという準備をしていたらしく、でも市立学校長会議でそういう電子書籍を開始するというので、職員も業者を呼んで研修して、校長先生も導入をと言われたところだったので、そういうのが少し早めにわかると職員もいいなというのを感じてはいるのですが、難しいというのは今お聞きした通り、わかりました。

高橋議長：よろしいでしょうか。他にご質問ございますか。よろしいですか。教育指導課鈴木課長よろしいですか

鈴木課長：はい。

高橋議長： 私は議長を務めておりますが、2点質問させていただきたいと思っております。

1点目は現在教員のなり手不足というのが叫ばれている中、その教員志望者志願者の発掘を含めた「よこすか教師塾」の状況は今どうなっているのか、ちょっとお聞きしたいと思います。この要覧や資料の中には入っていないのですが、現状を教えていただければと思います。

2点目は別紙資料に、経験年数に応じた研修の年間欠席者数のグラフがあるのですが、これも年々増加しているのが非常に気になるところでございます。これに関する何か原因とか対応策とか、先日、市立学校長会議で梅谷所長からもあったのですけれども、学校現場としてどうしていったらいいのかというのもありましたら、お答えいただければと思います。2点いかがでしょうか。

米持校長：関連してなんですけど、私このグラフの人数の分母が知りたいと思っています。それぞれの分母かその人数が、記録しているのですか。

伊東主査：はい。数としてはあるので、ちょっとまた追加した資料という形でお示しをさせていただければと思います。

田山主査：教師塾については浅見指導主事から年間欠席者数については、伊東主査からお願いいたします。

浅見指導主事：ご質問いただきありがとうございます。

教師塾ですけれども、令和5年度は当初12名が希望してきました。ただ途中都合がつかなくなり、途中退塾された方もいらっしゃいますが、最終的には7名を卒塾させました。今年度は5名応募がありましたけれども、1名が辞退しましたので4名で行っております。7月に卒塾式を4名で迎えたいと考えております。また本年度教師塾の卒塾者で新採用になった者は中学で1名、小学校で4名おります。そのような状況でございます。令和4年度、令和3年度もそれぞれ数名ずつおりますけれども、大体7～8割程度の合格率を確保しております。私からは以上になります。

伊東主査：貴重なご意見をありがとうございました。欠席者数の増加についてですけれども、

これについては先ほど私のほうから少し触れさせていただいたのですが、やはり学校行事が今までと比べて元通りに戻ってきたというところも、我々としてはあるのかなというふうに感じております。代替研修も設定しているのですが、やはり我々のほうで大事にしているのが、研修受講者に対して我々が講義したことを学んでくださいねということよりも、やはり研修受講者同士で意見を交流したり、自分の学校の様子を話したりということで、自身がアウトプットすることによって学びに繋がると思っています。聞くことによってというところも大事にしているので、代替研修であると人数がとても少なくなり、もらえる経験が少なくなるというふうに考えると、できれば同じ研修の中で、いろいろな先生方と意見を交流してほしいというところが願いとしてはあります。

研修の日程の提示の仕方についてですけれども、1月から3月にかけて次年度の年間の日程を順次出しておりますので、できるだけ早く我々としてはそこに研修の日程を載せるということは意識していますので、学校と協力してできることは、その日程を見ていただきながら学校行事等の調整を図っていただきたいというふうに考えているところです。また、学校でもその年間の予定の組み方とか次年度の構成というところは、我々としては情報不十分なところもあると思いますので、ぜひそのあたりは学校と情報交換をしながら、できるだけ先生方が受講しやすいようにして、受講できるような研修機会の日時を設定していきたいというふうに考えておりますので、また意見交換していきたいと思っております。以上です。

高橋議長：ありがとうございます。またあの受講者の母数についてはまた補足をしていただければと思います。他にご質問ございますか。

梅谷所長：よろしいでしょうか。私は欠席者数の件での改善なのですが、やはり学校の行事がたくさん増えてきたように思います。重なりが出てしまうということがそれはもうずっと同じ状況が続いているので、研究所としても何か改善をしなければというふうには考えています。例えば不正確ではありますけれども、もしかしたら前年度のうちにある程度対象者を出すことができればよいのですが、そうしたほうがよいのかということも少し考えています。ただ異動もありますし、すごく不確定な要素があります。そこがどうなのかと、またいろいろご意見を聞きたいと思っております。あとはやはり年間行事を組まれる先生によって、校内との調整が難しいという意見も現実的にあると思っております。以上です。

高橋議長：ありがとうございます。では、質問のほうよろしいでしょうか。では続きましてご意見がありましたらお願いいたします。何か、ご意見はございますか。では質問、ご意見以上といたします。それでは最後に懇話会構成員の皆さんから今後の研究所の事業についてですね、一言ずつご意見をいただいて、それで終わりたいと思っております。では米持校長一言いかがでしょうか。

米持校長：先ほど質問に絡めて意見の方十分言わせていただきまして、ありがとうございます。

ます。もう本当に皆さんが真摯に横須賀の教育に向き合ってお仕事をいただいているのは十分わかっています。私は横須賀総合高校を預かっていますけれども、学校としてできることは学校としてやっているし、また教育委員会にお願いしなければならないことは、教育委員会とともに協力してやっていきたいというふうに思っていますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

佐藤校長：有意義な研修をたくさん企画してくださっているので、学校現場はぜひそれを享受できる教員の立場を作ってあげなくてはいけないと思って、これからいろいろな会議の持ち方、そういう行事予定の持ち方も見直して、いろいろ配慮していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

三宅校長：いろいろ学校現場のためにご尽力いただきありがとうございます。学校はどうしても教員不足で年齢の高い先生方の力に頼らなきゃいけない現状がある中で、我々以上にとっても言いにくい先生方が、言いにくいことを伝えなくてはならないというところもあると思うのですけれども、そういうところも含めて、お力になっていただければと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

鈴木課長：本日ありがとうございました。教員研修に関わることとか、それからまた ICT の活用という話題が多かったかなというふうに聞いていて思いましたが、私達が所管している学力向上の事業に本当に直接的に関わる部分が非常に多くあると、研究所が所管されているということを改めて認識いたしましたので、今後ますます連携をしっかりと取って、協力して授業力が上がるように努めてまいりたいなというふうに思っております。ありがとうございました。

高橋議長：ありがとうございました。最後には私からですが、本当に今教員のなり手不足というのが、世間で騒がれております。そんな中でもあえて教職の道を歩んでいくことを決めた初任者や、経験の浅い教員がいます。今後は受講者のアンケートをもとに新設されたというこの授業作りワークショップ研修において、ぜひ受講者の困っていることとか、悩みなども共有していただいて、有効な研修が展開できるように期待をしております。よろしくお願いいたします。

では以上をもちましての議事を終了いたします。皆様、進行にご協力ありがとうございました。